

第2回北秋田市総合戦略検証会議 会議録

日時：平成29年1月19日 13時30分～15時50分

場所：北秋田市本庁舎 3階大会議室

【会議の概要】

- 第1回の検証会議での各部長等からの説明及び質疑応答を踏まえて、総合戦略・総合計画に記載されている各成果指標の効果検証シートと、地方創生関連事業の事業検証シートについて、検証会議としての評価検証を行った。
- 評価検証を行う前に、資料1「目標達成確認シート」や第1回検証会議で調整中としていた成果指標の修正内容等について事務局から説明した。
- 今回の検証会議で、今年度は終了となる。今回出された意見・提言を取りまとめ、市議会常任委員会に報告し意見交換を経て、今年度の評価検証は完了となる。

【質疑応答】

<協議事項（1）効果検証シートについて>

小塚委員）N084「福祉施設から一般就労への移行者数」について、一般就労の意味合いについて納得がいかない。例えば知的障がい施設から障がい者が完全に直って、フルタイムで就職となることはまずあり得ない。これを踏まえて見解の相違がある。行政の捉え方はこれでいいのか疑問がある。

藤田委員）我々にも目標値として就職件数がある。その就職件数とは、ここでいう一般就労のこと。就職のカウントの仕方は一週間で20時間以上であり、かつ雇用契約期間が31日以上を満たすと、雇用保険の被保険者となるので、この場合をカウントしている。障がい者が最初からフルタイムで就業するのはハードルが高い。少しずつステップアップしていった常用就職につなげることが障害者の就職支援のセオリーである。最初はパートであっても就職件数にはカウントしていく。フルタイムと正社員という二つのハードルがある。ハードルは高いが目標値が1人であるのでいいが、これがもっと多い数値だと厳しい。

福原委員）検証シート全般について、130もある項目の中で重要な項目が少ない。例えば目標値の設定を総人口、高齢化率、生産年齢人口、転入出者数などにすればよいのでは。人口ビジョンの数値と比較した中間報告を毎年報告してもらえばよい。

事務局）目標設定の考え方として、総合戦略は大きな基本目標を達成するための成果指標を設定している。例えば、高齢化を減らすためにどのような目標を立てていけばよいかというのが見えにくい。そういうことから、例えば、少子高齢化を解消するためには移住者を増やしていこうというような目標を設定したもの。また、人口ビジョンにある数値については次年度の検証会議で報告することは可能である。

小塚委員) N051「学校地域支援コーディネーター数」について、地域ぐるみで子供を育てていくために、現在は小学校と幼稚園・保育園の連携を強めようという話も出ている。ぜひそのようなことも考えていていただきたい。

小坂委員) N020.21「観光客数」「年間宿泊客数」について、観光客数、宿泊客数はどうやってカウントしているのか。

事務局) 各施設等に報告してもらったものを積み上げたものである。

成田委員) N020「観光客数」の1,352千人についてはどの施設、何の数字を積み上げたものか。

相場委員) 各自治体で観光地のポイントがあるが、それぞれにカウントの仕方があるはず(車1台で2.5人とする等)。これらのデータは正確に捉えるのは難しく、統計的な手法になるはず。本当に県外から来た観光客数かどうかは言えないが、どの市町村のカウント方法も同じである。

事務局) 積算方法について後日確認する。→実数の積み上げや車両台数からの推計など、施設等によってカウントの手法は様々である。

成田委員) 他市町村との比較は簡単にできるのか。

相場委員) 観光地に関しては、例えば観光資源がどれくらいあるかにもよるので、自治体の規模や人口規模だけでは比較しがたい。

座長) 各市町村の数値は把握できるはずなので、今後は見える形にして欲しい。

野宮委員) 観光客数について、例えば各イベントに対して、市としてどういうことをやって集客をしていこうとしているのか。

事務局) 最近は大館市や小坂町との観光DMOとしての連携や、宿泊施設の増築の補助などの取り組みを行うことで、受入れ客数を増やせるようにしている。また、現在は宿泊施設利用への2,000円の補助も行っている。

小塚委員) N049「自主講座の講師を担当する市民の数」について、総合計画の生涯学習の充実の中に市役所の出前講座があるが、この部分は数値としてどこに現れるのか。

座長) ここは市民が行う自主講座のみを目標にしているのでは。

事務局) 自主講座は市民が自ら行うもので、今後この講師の数を増やすことを目標としているもの。市役所による出前講座については、もし公民館内で実施されれば、実績としてカウントされることになる。

大穂委員) 出前講座と自主講座は別のものであるのではないか。

小塚委員) 市職員による出前講座の開催数は目標値にあるか。

事務局) 目標値としてはない。

小塚委員) この取り組みはとても良い。地域に広めるのであればこれも目標値であれば良いと思う。

成田委員) 各成果指標にあるアンケート結果の分母はどこかに表示されているのか。

事務局) 本件は前回もご指摘をいただいたところ。毎年実施している市民1,000人を対象とした市民意識調査の結果になるが、分母となる回答数については次年度の資料には記載し

たい。

座長) 毎回の意識調査を掲載する際には、例えば雪関連事業のように、質問によっては旧町別に踏み込んだ結果が無いと次の一手が打てないと思う。

<協議事項(2) 事業評価シートについて>

座長) 評価基準として、各担当が付けている評価点数の8割をA、7割をB、6割以下をC、5割以下をDとして、その後に委員の皆様の意見を踏まえて決定したい。

NO1 北秋田市スーパープレミアム商品券事業

福森委員) スーパープレミアム商品券は市民に対してのみの販売であった。市民以外への販売があればよかった。市民だけへの販売に疑問。外貨を得るためには市外の人にも売ったら良かったと思う。

福原委員) その後、波及効果があったかどうかの検証が必要である。

小塚委員) 子育て世帯の購入世帯割合は43%にとどまっている。買える人しか買えなかったのではないか。少しでも欲しかった人が買えたのか疑問。

座長) 成果指標が目標に達しているのはいいが、実施後の波及効果について検証が必要。(担当の評価は「統合・縮小」とあるが) やめてしまうと元の本阿弥となる。そういうことも含めた評価が必要である。本事業は今後の事業展開に関する予算についてもはっきりしない面もあるので、担当の評価は高いがB評価とする。

NO2 北秋田市スーパープレミアム宿泊券事業

大穂委員) 国からお金が出たから行った事業であるが、そういった事業全般については、カンフル剂的な印象がある。根本的な解決につながっているのか。今後はこういう事業でない形がいい。

小坂委員) ビジネス客の利用がほとんどであると記載がある。つまり、仕事の関係で必然的に利用する方々であり、この事業があったから利用する人ではないのでは。

相場委員) 商品券事業と違って、宿泊券事業はお客様に来てもらって、良い思いをしてもらって、次に正規料金で来てもらうことで、始めて戦略として成功となるもの。この点の検証が必要になる。

座長) 今年1月から3月にやっている宿泊施設利用助成事業は、本事業の検証を踏まえてやっていると思われるので、ある程度の効果が見られたと判断する。

成田委員) 自分も利用したが、この事業があったのでその浮いた分を周辺の飲食店で利用した。ビジネス利用客であったとしてもそのような波及効果があったと思うので、動機付けとなったことをプラス評価したい。

座長) 確かに波及効果はあると思う。その点を加味してB評価とする。

NO3 内陸線乗車促進事業（貸切列車料金助成）

大穂委員）団体客利用の貸切列車への助成であるが、利用は何件となるのか。補助金があるから出来る事業であり、例えば会社がオフシーズンに6万円を5万円にして、それをPRしていくとか、お金の使い方としてもっと他にやり方がないものか。最近、内陸線のこぐま亭に外国人が来るようになってきているが、駅のトイレが洋式ではない。洋式トイレは外国人観光客への最低限のおもてなしである。お金を使うのであれば、将来につながる使い方をしてもらいたい。

座長）高齢者からも、和式トイレ利用は立ち上がれないので、そういう施設は利用したくないとの声を聞いたことがある。

小坂委員）トイレについてはそう感じる。きれいなところはまた利用したいと思うが、汚いところは二度と行きたくない。

大穂委員）最近、台湾からの観光客が多い。たくさんの人がトイレを利用する中で、その評判がSNSで広がっていく。いい評価ならいいが悪い評価なら大変である。内陸線の車両も和式トイレなので、自分では阿仁庁舎の洋式トイレを使っている。

小塚委員）この事業を知らなかったが、知っていれば障がい者団体や町内会で真っ先に利用した。しかし以前、熊牧場に行きたかったが、阿仁マタギ駅で障がい者が段差のため降りられなかったので利用できなかった。乗りたくても乗れない、降りたくても降りられないところを改善することが集客につながるのでは。

座長）検証会議としては、改善余地がたくさんあり効果も期待できるということでB評価とする。

NO4 内陸線乗車促進事業（団体旅行運賃助成）

大穂委員）実はこの事業はあまり知らなかった。この事業は、ある程度の人数がまとまらないと利用出来ないものなので、チラシをまいて何ヶ月間実施すると言っても、利用しようとする頃には事業が終わってしまう。例えば、ある第三セクターでは市の広報に片道利用券をつけているところもある。やり方を広く知らしめるか、乗車促進するための手立てを継続的に使えるようにしなければいけない。内陸線の土日のフリー切符は、知っている人はよく利用しているが知らない人は全く知らない。バスも同じことが言えるが、宣伝の仕方と枠組みの作り方が大事と感じる。

相場委員）内陸線には観光路線と市民の足（生活路線）の二面性があり、生活路線としては相当落ち込んでいる。生活路線としての促進を目的としたものであるなら、もう少し使いやすいものとしてアピールする必要がある。一般市民への広くPRするよりも、利用しそうな町内会や小学生・幼稚園等の団体へ向けてアピールを行った方がよい。

座長）担当部署からの評価も踏まえてD評価とする。

NO5 北秋田市総合戦略策定事業

座長) 本事業は既に事業終了しているものなので、質疑を省略し、A評価とする。

NO6 農産物販路拡大事業

大穂委員) 比内地鶏の生産量が多くて冷凍のまま眠っているという話題があるが、それとの関係は。

事務局) そういう問題が明るみになる前に、比内地鶏の羽数を増やす目標で計画したものになる。

藤田委員) 農業関係で言えば、特別支援学校の生徒が農業関係の施設を利用して就職するケースが増えてきている。現在、特別支援学校と農業の人手不足をマッチングする制度を県教育庁が実施しているという動きがある。一般の高校においては(農業就職者は)ゼロではないが普通の企業に勤める方がほとんどである。

津谷委員) 農業の6次産業化は、やりたいから誰でも出来るわけではなく、保健所の許可をもらえる設備を完備する必要がある、希望はあるがなかなかそこまで踏み切れていない現状があり、課題であると考えている。

成田委員) 目標値のJA販売額は総販売額なのか。何を指しているのか。

事務局) 手元に資料がない状況なので、後ほどお知らせしたい。→JA販売額の実績値292,825千円は成果物販売実績額。

成田委員) 事業目的に「6次産業化」とあるが、直接つながる事業がないように思えるがどうか。

事務局) 目的内容には載っているが、実施事業の中には対をなす事業がない気がする。

自己評価について、コスト削減の余地について触れているが、具体的に見えているものはあるのか。

座長) 具体的な部分については、見えないものを評価するのは難しいので、次回評価の際にも担当部長等に出席していただきたい。事業評価については担当部署の評価を踏まえてB評価とする。

NO7 北秋田市観光PR事業

大穂委員) N07について、Wi-Fiについては大変良かったと感じている。しかし、マタギの湯は温泉施設なのに風呂場の蛇口が壊れているのがある。ぜひ早急に対応していかないと苦情が増えてしまう。素材はとても良いのでしっかりとメンテナンスをお願いしたい。

野宮委員) 首都圏等での観光PR補助とあるが、実際どのようなことをしているかどれくらい売れたのかという実績があるのか。検証していくに当たって見えるものが欲しい。

座長) 評価の際にはぜひ分かるように参考資料として付けてほしい。

小塚委員) 観光イベント補助とアンテナショップとの関連はあるのか。費用対効果について知りたい。

相場委員) 観光PR事業全体で言えることだが、PRをしたことで地元何人観光客が来た

かどうかの効果の検証は難しい。PRは短期的なもの、すぐに効果が出るものではなく、続けていかななくてはいけないもの。

大穂委員) 例えば、バター餅は首都圏でPRをした効果ではなく、テレビに出た効果である。最近、台湾からブロガーが来て体験していったものを発信している。これまでは旅行者だけであったが、発信力のある人を呼ぶようになった。例えば、首都圏でバター餅を売ってくれといわれても、旅費を出したらもうからないので、自前で売りに行く業者はいない。宣伝にはなるが、様々なタイプのイベントがあるので、この商品をどう売り出せば効果的かを戦略的に上手くやっていかないと効果は得にくい。

相場委員) 観光分野では、例えば内陸線田んぼアートを見に来た内陸線のお客さんが何人なのかを検証するのは難しい。直接数字につながるものとつながらない長期的なことを一緒にやらないといけないのが観光のつらさがある。やったことは改善しながら続けていかなければ意味がないと思う。

津谷委員) 今日の魁新聞で東京土産を秋田のお菓子屋さんが作ると報道があった。バター餅といったら秋田県と思ってくれるようなネーミングを使ってもらってなんとなくうれしい気持ちになった。

座長) 特にWi-Fiの効果があったと思われるので、B評価とする。

NO8 北秋田市保育園等保育環境充実事業

小塚委員) NO8について、これは公立と私立の全ての保育園に補助されたもので、市から各園で必要なものをあげてもいいということであった。これは進んでいると感じた。感染症対策としてすごく効果があった。特にお金のない民間施設にとってはとても感謝している。子ども達にとってもとてもいい事業であった。

座長) とても効果があったと認められるのでA評価とする。

座長) その他に特になければ終了とする。

以上